

# 第3回 鳥海ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

## － 議事概要 －

- 開催日時 平成23年9月20日（火）14:00～15:40
- 場所 本荘由利広域行政センター3F 学習ホール
- 出席者
  - 構成員 秋田県知事、由利本荘市長、由利本荘市副市長
  - 検討主体 東北地方整備局長、河川部長、  
秋田河川国道事務所長、鳥海ダム調査事務所長

### ● 討議概要

#### 1. 事業等の点検について

- ・ 大震災の影響で検討の場の一時中断やむなしと思っていたが、検討の場を再開していただき、感謝している。
- ・ 最近も6月の出水、その後の渇水等、水をめぐる気象状況は大変な変化をしてきている。
- ・ 検証もようやくここまでたどりついた。この後も、出来るだけスムーズに進めていただきたい。

#### 2. 複数の治水対策案の立案について

- ・ 子吉川は河川延長が短く急流で、降った雨が一気に川に流れ込む。最近でもH19.8～9月に3度、H21.9月、今年6月にも集中豪雨災害。行政としては、こうした水害から住民の安全を守ることが最も基本。過去の水害や渇水を踏まえ、ベストな対策として子吉川河川整備計画が策定されている。
- ・ 今回の治水対策の概略評価で、「○」判定となったもののうち、氾濫を想定した対策や遊水地は関係住民との合意形成に疑問を感じるし、大内ダムのかさ上げは、芋川合流点下流にしか効果が及ばない。また、これらの対策はすべて利水対策には結びつかない。こうしたことから、鳥海ダムの建設が最も適切であり、必要不可欠と考えている。
- ・ 時間軸を含めた検討を進めていただきたい。対策によっては、地権者の問題、農地の問題、道路の取り付けなど、費用が同じでもかなり時間がかかる場合がある。時間がかかると費用も増すので、この点も考慮して今後検討してほしい。
- ・ 最終的に評価する段階で、我々の意見はどのような形で反映されるのか。

### 3. 複数の利水対策案の立案について

- ・ 由利本荘市の水道水源の黒森川貯水池は、降雨だけが頼りの非常に不安定な水源であり、これまで何度となく渇水に見舞われている。水道事業は市民の生活用水のみならず、社会活動・産業活動の基盤であり、24時間365日供給し続ける責務を負っている。  
治水と同様、子吉川は河川延長が短く急流、降った雨はすぐ海に流下し、日照りが続くと「流水の正常な機能」を維持できなくなり、塩水遡上による被害も出ている。  
こうした状況や過去の渇水を踏まえ、ベストの対策として子吉川河川整備計画が策定された。安定した水道供給には、鳥海ダム以外の方法はないと考えている。
- ・ 利水対策の「流水の正常な機能の維持」では、大内ダム等から導水しているが、とても現実的なものとは思えない。
- ・ 水道用水は、鳥海ダムの場合、流水の正常な機能の維持を満足する容量がある中での30万m<sup>3</sup>であることから、代替案の単体で30万m<sup>3</sup>では安定的には確保できないと思っている。
- ・ いずれの案も治水対策には結びつかない。
- ・ 東日本大震災後の国のエネルギー政策を考えると、検討の場のスタート時とは状況が一変している。ダムを活用した水力発電の推進に取り組むべきであり、自然エネルギー政策への貢献という評価項目があるべきと考えている。この観点も入れ込んだ事業推進を期待する。  
こうしたことから、利水対策においても鳥海ダムの建設が必要不可欠であり、これに代わる利水対策案はないと考えている。
- ・ 今は治水・利水別に検討を行っているが、治水と利水は互いにリンクするものであり、最終的には二つの目的をトータルで評価されるものとする。

### 4. パブリックコメント、意見聴取について

- ・ (意見聴取について)  
鳥海ダムが始まってから長い時間がかかっており、地元の住民も今後どうなるのか不安。我々としても、出来るだけ早く結論づけをしたいということで大至急対応する。
- ・ 全国でダム検証が進められているが、今後、検証が終わった後の事業採択の順番はどのようになるのか。鳥海ダムは長期間を要している事業でもあることから結論が出たら出来るだけ早くスタートしてほしい。また、これまでの経緯も加味しながら本省にも働きかけをしていただきたい。

(平成23年10月5日 事務局取りまとめ)